

10/9-10 “[「福島の復興と被災者の生活」](#) [2022](#)” [「被災者の生活と復興の現状」](#) [「被災者の生活と復興の現状」](#) [「被災者の生活と復興の現状」](#) [「被災者の生活と復興の現状」](#) Zoom [「被災者の生活と復興の現状」](#)

2022年10月9日(土)11時10分～10時10分
開催場所 東京大学
Zoom [「被災者の生活と復興の現状」](#)

◆ [「被災者の生活と復興の現状」](#) WIMA

[「被災者の生活と復興の現状」](#)

◆ MITATE Lab. Post-Fukushima Studies ([「被災者の生活と復興の現状」](#))

[「被災者の生活と復興の現状」](#) B [「被災者の生活と復興の現状」](#)

◆ WIMA [「被災者の生活と復興の現状」](#) 359-1192 [「被災者の生活と復興の現状」](#) 2-579-15

[「被災者の生活と復興の現状」](#) E-mail shinsai-wima@list.waseda.jp

[「被災者の生活と復興の現状」](#) SSN [「被災者の生活と復興の現状」](#) E-mail: desk@431279.com

[「被災者の生活と復興の現状」](#)



[「被災者の生活と復興の現状」](#)

10月9日(土) 3時～

11時00分 [「被災者の生活と復興の現状」](#)

11月10日 [「被災者の生活と復興の現状」](#) WIMA

[「被災者の生活と復興の現状」](#)

11月40分 [「被災者の生活と復興の現状」](#)

[「被災者の生活と復興の現状」](#)

12月20日 [「被災者の生活と復興の現状」](#) Aya H. Kimura [「被災者の生活と復興の現状」](#) ... [「被災者の生活と復興の現状」](#) Zoom

[「被災者の生活と復興の現状」](#) “[「被災者の生活と復興の現状」](#)” [「被災者の生活と復興の現状」](#) “[「被災者の生活と復興の現状」](#)”

13時00分 [「被災者の生活と復興の現状」](#)

■WIMA■■■

◇

◇

◇

◇

◆

◇

◇

◇

◆

◆

◇

◇

◇

◇

◆

◇ Thanks Dream

◆◆

311



“出版記念シンポジウム 復興の人間科学2022”
『福島原発事故被災者 苦難と希望の人類学』
—分断と対立を乗り越えるために—

“Anthropology of Tribulation and Hope from FUKUSHIMA”

[10月9日(日)] 3階・会議場

- 11:00 開会の挨拶:トム・ギル(明治学院大学教授)
11:10 講演①:辻内琢也(早稲田大学教授・WIMA所長)
「分断と対立の根底にある問題群」
11:40 講演②:トム・ギル(明治学院大学教授)
「突然の追放、突然の富、そして妬みと差別」
12:20 講演③:木村あや Aya H. Kimura
(ハワイ大学教授) …米國よりZoom
「草の根からの“市民”と、国や東電が構築する“市民”」
13:00 講演④:日高友郎(福島県立医科大学講師)
「“大熊町の私”から“私の中の大熊町”へ」
13:40 休憩(60分)
14:40 講演⑤:アレキサンドル・スクリヤール 来日
Aleksandr Sklyar (コルゲート大学客員准教授)
「福島から自主避難した母親たちのデレンマ」
15:20 講演⑥:堀川直子(WIMA招聘研究員)
「日常の苦境、模索する希望」
16:00 休憩(10分)
16:10 講演⑦:レシュケ・ロッシュ Ayaka Löschke
(エアランゲン=ニュルンベルク大学准教授)
「住宅支援打ち切りへの抗議」…ドイツよりZoom
16:50 講演⑧:マリー・ヴァインゾフト Marie Weishaupt
(ベルリン自由大学大学院)
「自主避難者が帰るとき」…フランスよりZoom
17:30 総評:日野行介(ジャーナリスト)
18:00 1日目終了

[10月10日(月・祝)] 1階・井深記念ホール

- 10:00 アンケート調査2022最終分析結果報告
10:40 講演⑨:浅沼=プリス・セシル
Asanuma-Brice Cécile
(フランス国立科学研究センター教授, MITATE Lab.)
「構造的暴力から見た帰還困難区域の復興」
11:20 講演⑩:平田修三(仙台青葉学院短期大学准教授)
「分断と対立を乗り越えるために」
12:00 休憩(50分)
12:50 パネルディスカッション(A)
「分断と対立を乗り越えるためのアイデア・プラン・希望」
14:20 休憩(10分)
14:30 基調講演:井戸謙一(弁護士)
「小児甲状腺がん裁判から考える
原発事故被災の現在」
16:00 パネルディスカッション(B)
「井戸先生の講演を受けての質疑応答」
16:50 総評:島蘭進(東京大学名誉教授・
上智大学グリーンケア研究所)
17:10 閉会の挨拶:辻内琢也
17:30 閉会



Zoom参加の方は
こちらから申込み
<https://wima.jp/>

2022年10月9日(日)11時, 10日(月・祝)10時
於:早稲田大学国際会議場 (無料, 申込不要)
Zoom同時開催 (Zoom参加の場合ネット申し込み制)

- ◆主催:早稲田大学災害復興医療人類学研究所(WIMA)
大会長:辻内琢也, 副会長:平田修三, 事務局長:金智慧
- ◆共催:MITATE Lab, Post-Fukushima Studies (フランス国立科学研究センター見立てラボ)
科研費基盤研究(B):原発事故被災者の移住・帰還・避難継続における新たな居住福祉に関する人間科学的研究
- ◆問合せ先(WIMA研究所事務局:辻内研究室内):〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
(シンポジウム事務局) E-mail: shinsai-wima@list.waseda.jp

[使用言語:日本語 Language; Japanese, 英語字幕付:with English caption]



https://wima.jp/



https://mitatelab.cnrs.fr/

早稲田大学災害復興医療人類学研究所 Waseda Institute of Medical Anthropology on Disaster Reconstruction

フランス国立科学研究センター見立てラボ MITATE Lab. Post-Fukushima Studies



◆基調講演◆

井戸 謙一(いど けんいち)
弁護士、「311子ども甲状腺
がん裁判」弁護団長

■会場のご案内

早稲田大学国際会議場

会場住所: 東京都新宿区西早稲田1-20-14
(地下鉄東西線「早稲田駅」徒歩10分、都営バス「西早稲田」徒歩3分、都電荒川線「早稲田」徒歩5分、JR・西武線「高田馬場駅」徒歩20分)



■WIMA研究メンバー

(◆本シンポジウムのコメンテーター&パネリスト)

- 【名誉顧問】** 菊地靖 (早稲田大学名誉教授、開発人類学)
【顧問】 根ヶ山光一 (早稲田大学名誉教授、発達行動学)
【所長】 ◆辻内琢也 (早稲田大学人間科学学術院教授、医師、医療人類学)
【研究員】 (*運営委員)
 ◇藤原淳* (人間科学学術院教授、社会医学)
 ◇小島隆夫* (人間科学学術院教授、建築環境心理学)
 ◇桂川泰典 (人間科学学術院准教授、臨床心理学)
 熊野宏昭 (人間科学学術院教授、医師、行動医学)
 金智慧 (人間科学学術院助手、臨床心理士、医療人類学)

【招聘研究員】(◆「苦難と希望の人類学」執筆者)

- リチャードF.モリーカ (ハーバード大学教授、難民トラウマ研究所HPRT所長、医師)
 安田常宏 (マサチューセッツ総合病院、医師、心臓核医学)
 ◇多賀努 (東京都健康長寿医療センター研究所研究員、社会学・老年学)
 ◇増田和(高) (武庫川女子大学文学部准教授、社会福祉士、地域福祉学)
 ◇岩垣穂大 (金城学院大学人間科学部専任講師、社会福祉士、精神保健福祉士)
 ◆平田修三 (仙台青葉学院短期大学准教授、発達心理学・児童福祉学)
 ◆日高友郎 (福島県立医科大学医学部講師、衛生学・社会心理学)
 仲佐保 (国際保健協力市民の会SHARE共同代表、医師)
 関谷雄一 (東京大学大学院総合文化研究科教授、文化人類学・開発人類学)
 土田マリサ (小石川インターナショナルクリニック、医師)
 ◇北村浩 (政治経済研究所主任研究員、政治学)
 桂川秀嗣 (東邦大学理学部名誉教授、原子核物理学)
 ◇猪股正 (震災支援ネットワーク埼玉代表、弁護士)
 ◇中川博之 (震災支援ネットワーク埼玉、司法書士)
 萩原裕子 (震災支援ネットワーク埼玉、臨床心理士)
 佐藤純俊 (全国福島県人友の会代表、社会福祉主事)
 ◇明戸隆浩 (大阪公立大学准教授、社会学)
 ◆堀川直子 (元福島大学客員研究員、社会人類学)
 ◇森松明希子 (東日本大震災避難者の会Thanks&Dream代表)

■講演者のご紹介

1954年大阪府生まれ。
1979年東京大学教育学部卒業。在学中に司法試験に合格。
1979年神戸地方裁判所に判事補として任官し、以後全国各地の裁判所にて裁判官を務める。
2011年3月31日に、大阪高等裁判所勤務を経て退官。
主な担当訴訟としては、裁判長として、住民基本台帳ネットワークシステム差止等請求事件や、志賀原子力発電所2号原子炉運転差止請求事件といった著名事件の判決に関与した。退官後は、各地の原発運転差止請求訴訟に関与するとともに、311子ども甲状腺がん裁判のほか、子ども脱被ばく裁判、原発事故避難者住まいの権利裁判等の被ばくをテーマにする裁判に取り組んでいる。

■書籍のご案内

『福島原発事故被災者 苦難と希望の人類学 一分断と対立を乗り越えるために』 辻内琢也、トム・ギル編著、明石書店、2022年10月発行

.....事故から11年。人間が引き起こした災害は戦後最大の「国内避難民」を生み、人々の生活に深い分断と苦悩をもたらしている。圧倒的暴力を前に我々は希望を見出すことができるのか。国内外の人類学者らが当事者とともに、隠蔽された社会構造を読み解く。

“幕引きを強いる構造的暴力を、地べたから可視化する試み”
—日野行介氏(『調査報道記者』著者)推薦



明石書店
akashi.co.jp